禁転載複製
当日配付
試験終了後公開

B67

「中央職業能力開発協会編」

令和７年度 技能検定
１級 畳製作 学科試験問題
(畳製作作業)

1. 試験時間　1時間40分
2. 問題数　50題(A群25題、B群25題)
3. 注意事項
   (1) 係員の指示があるまで、この表紙はあけないでください。
   (2) 答案用紙(真偽法と多肢択一法の併用)に検定職種名、作業名、級別、受検番号、氏名を必ず記入してください。
   (3) 係員の指示に従って、問題数を確かめてください。それらに異常がある場合は、黙って手を挙げてください。問題はA群(真偽法)とB群(多肢択一法)とに分かれています。
   (4) 試験開始の合図で始めてください。
   (5) 解答の方法(真偽法と多肢択一法の併用)は次のとおりです。
      イ. A群の問題(真偽法)は、一つ一つの問題の内容が正しいか、誤っているかを判断して解答してください。
      ロ. B群の問題(多肢択一法)は、正解と思うものを一つだけ選んで、解答してください。二つ以上に解答した場合は誤答となります。
      ハ. 答案用紙(マークシート用紙)へ解答する際は、答案用紙に記載されている注意事項に従ってください。
      ニ. 答案用紙の解答欄は、A群の問題とB群の問題とでは異なります。所定の解答欄に、試験問題の題数に応じて解答してください。解答欄はA群は50題まで、B群は25題まで解答できるようになっています。
   (6) 電子式卓上計算機その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
   (7) 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等は、使用してはいけません。
   (8) 試験中、質問があるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
   (9) 試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (10) 試験中に手洗いに立ちたいときは、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (11) 試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。

［A群（真偽法）］

1　日本産業規格(JIS)によれば、畳床による区分の1級とは、建材畳床である。

2　日本農林規格(JAS)によれば、畳表のたて糸の本数は、単芯の場合、2種表では128本とされている。

3　頭板の材料には、一般に、ひのき材が使用される。

4　日本産業規格(JIS)によれば、ポリスチレンフォームサンドイッチ稲わら畳床の性能における局部圧縮量は、5mm以下とされている。

5　両用機とは、上前と下前の平刺し縫いを同時に行うことができる機械をいう。

6　待ち針は、へりを張る場合にも使用する。

7　わたりは、畳の厚さを測るのに使用する。

8　6畳間で丈と幅の曲(くせ)がなく、歪(ひずみ)が3寸(約90mm)ある部屋の畳を掛歪法(掛シミズ法)で製作する場合、1畳の歪は、1寸4分(約42mm)である。

9　中物畳の両目乗り寸法は、畳の幅及びへり幅によって異なる。

10　口ござには、たて糸が綿糸の柔らかい古表が適している。

11　口ござの幅は、へり幅に、表目約一目分の幅と、切落し部分の幅を加えた大きさとするとよい。

12　頭板の爪の取り方は、へり付き畳では裏爪とし、へり無し畳では表爪とする。

13　畳床を継ぎ合わせる場合は、畳床の裏側を下にして縫い合わせるとよい。

14　へり無し新畳には、詰め板を使用する。

15　返し縫いの糸掛けは、一般に、一文字返しよりも柳掛けの方が糸締まりがよい。

16　へり幅が同じであっても、背負い明かりの場合は、一般に、受け明かりの場合よりもへりが細く見える。

17　畳表をへり無し畳に使用する場合は、熱湯に浸してから表折りするとよい。

18　頭板の穴相互の間隔は、等間隔にするとよい。

［A群（真偽法）］

19　細紙は、框（かまち）まで回すとよい。

20　へり付き畳の張り替えで、軒先が下がっていた場合は、麻経て古表を使って、口ござを入れて軒先を上げる方法もある。

21　市松敷きとは、1畳の大きさの長方形畳を複数枚、縦横交互に敷き込む敷き方をいう。

22　10畳間に廻し敷き(廻り敷き)で新畳を敷き込む場合には、大枕→両通し→両枕→中物の順とする。

23　新畳を積み重ねて置く場合は、一般に、表と表を合わせるとよい。

24　畳には、二酸化窒素ガスを吸収したり、室内の湿度を調整する効果があるので、畳の上にカーペットや他の敷物を重ね敷きしないほうがよい。

25　畳製作作業に必要な照度は、50ルクス程度である。

［B群（多肢択一法）］

1　日本産業規格(JIS)の断熱建材畳床の性能で、たわみ量に規定されていない数値はどれか。

イ　5mm以下
ロ　6mm以下
ハ　8mm以下
ニ　12mm以下

2　日本産業規格(JIS)において、畳へり地の種類として、規定されていないものはどれか。

イ　柄へり地
ロ　綿・Pへり地
ハ　綿糸へり地
ニ　麻へり地

3　日本産業規格(JIS)によれば、稲わら畳床の区分と横糸の間隔の組合せとして、適切でないものはどれか。

区分　　横糸の間隔

イ　WR－S・・・24mm
ロ　WR－1・・・27mm
ハ　WR－2・・・30mm
ニ　WR－3・・・33mm

4　日本産業規格(JIS)によれば、稲わら畳床及び稲わらサンドイッチ畳床の区分と、寸法92Wにおける1枚の質量の組合せとして、適切でないものはどれか。

区分　　1枚の質量

イ　WR－S・・・・28.8kg
ロ　WR－3・・・・23.7kg
ハ　TB－C20・・・23.0kg
ニ　PS－C20・・・19.5kg

5　日本農林規格(JAS)によれば、単芯のたて糸を用いた1種畳表のたて糸の本数として、適切なものはどれか。

イ　126本
ロ　134本
ハ　252本
ニ　268本

［B群（多肢択一法）］

6　五八間の畳製作に使用される長指しと、幅指しにおける目盛の部分の長さの組合せとして、適切なものはどれか。

	長指し	幅指し
イ	7尺(約212cm)	3尺5寸(約106cm)
ロ	7尺(約212cm)	3尺1寸5分(約95cm)
ハ	6尺(約182cm)	3尺5寸(約106cm)
ニ	5尺8寸(約176cm)	2尺9寸(約88cm)

7　十字本法における採寸に関する記述として、適切でないものはどれか。

イ　部屋の中央に設ける直角座標は、東西南北に合致させなければならない。

ロ　正方形間、矩(く)形間、長方形間等の部屋の形態によらず、採寸できる。

ハ　部屋の中央に荷物があると採寸できない。

ニ　大広間の採寸には向いていない。

8　次のうち、1畳間の寸法取りの手順として、最も適切なものはどれか。

イ　丈方向の両端部における幅寸法を測る。→丈寸法を測る。→対角線寸法の差を測る。→畳寄せの深さを測る。

ロ　丈方向の中間部における幅寸法を測る。→対角線寸法の差を測る。→丈寸法を測る。→畳寄せの深さを測る。→丈方向の両端部における幅寸法を測る。

ハ　丈方向の両端部及び中間部における幅寸法を測る。→丈寸法を測る。→対角線寸法の差を測る。→ぬき糸を張り、上前及び下前の曲(くせ)を測る。→畳寄せの深さを測る。

ニ　丈方向の中間部における幅寸法を測る。→丈寸法を測る。→対角線寸法の差を測る。→畳寄せの深さを測る。→丈方向の両端部における幅寸法を測る。

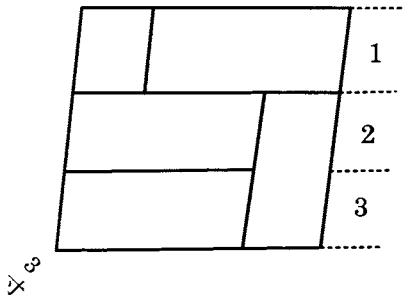
9　下図のように、歪(ひずみ)が3寸(約90mm)ある4.5畳間の寸法取りを掛歪法(掛シミズ法)で行う場合、全体の歪を3等分した各1寸(約30mm)の歪に対する掛け率(歪を曲(くせ)に直す率)として、適切なものはどれか。

イ　1.1倍

ロ　1.25倍

ハ　1.4倍

ニ　1.6倍



10　割本法(消し本法)による六畳間の寸法取りで、曲(くせ)の消し率の割出し方法として、正しいものはどれか。

イ　丈曲×0.1＋幅曲×0.2 ＝ 歪(ひずみ)(シミズ)

ロ　丈曲×0.2＋幅曲×0.4 ＝ 歪(シミズ)

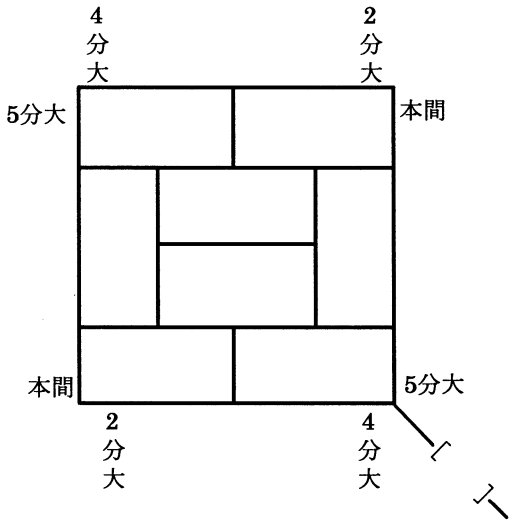
ハ　丈曲×0.4＋幅曲×0.6 ＝ 歪(シミズ)

ニ　丈曲×0.8＋幅曲×0.6 ＝ 歪(シミズ)

［B群（多肢択一法）］

11　次のうち、正方形間(8畳間)の寸法割付けにおいて、図中の[　　]内に当てはまる寸法として、適切なものはどれか。

イ　7分(約21mm)
ロ　8分(約24mm)
ハ　1寸(約30mm)
ニ　1寸2分(約36mm)



12　次のうち、へり付き板入新畳の平刺し作業におけるわたり(こざる)掛けのきせの幅として、適切なものはどれか。

イ　5厘(約1.5mm)
ロ　1分2厘(約3.6mm)
ハ　1分3厘(約3.9mm)
ニ　1分5厘(約4.5mm)

13　手縫い作業における、厚さ60mmのへり無し畳の畳床の幅切落しに関する記述として、適切なものはどれか。

イ　垂直に落とす。
ロ　斜め内側に1分(約3mm)落とす。
ハ　斜め内側に3分(約9mm)落とす。
ニ　斜め内側に5分(約15mm)落とす。

14　文中の(　　)内に当てはまる数値として、適切なものはどれか。

板入れ畳の場合、平刺し縫いの最後(手先)の針の位置は、框(かまち)端から(　　)のところが適切である。

イ　3分(約 9mm)
ロ　4分(約12mm)
ハ　5分(約15mm)
ニ　6分(約18mm)

15　返し縫い作業の上げ針に関する記述として、適切なものはどれか。

イ　抜き先に対し、い草10本程度手元へ上げる。
ロ　抜き先に対し、い草5本程度手先へ上げる。
ハ　次の返しとの中間に上げる。
ニ　抜き先に対し、い草3本程度手元へ上げる。

［B群（多肢択一法）］

16　板入れ畳の頭板が古くなって割れている場合の処置として、適切なものはどれか。
　イ　頭板を新しいものに取り替える。
　ロ　割れている部分を接着剤で補修する。
　ハ　頭板を取り外して畳表を縫い付ける。
　ニ　割れが広がらないように、板を包むようにして糸を掛ける。

17　和室における正方形間はどれか。
　イ　26畳間
　ロ　28畳間
　ハ　30畳間
　ニ　32畳間

18　次のうち、室内の畳の管理方法として、最も適切なものはどれか。
　イ　日当りのよい場所に長時間置いておくとよい。
　ロ　梅雨期には、戸、障子は閉め切っておく方がよい。
　ハ　天候に応じて室内の風通しをよくする。
　ニ　暑いときは、加湿器を適度に使用する。

19　木造建築物における和室の床板を支える根太の間隔として、適切なものはどれか。
　イ　30～45cm
　ロ　50～65cm
　ハ　70～85cm
　ニ　90～105cm

20　文中の(　　)内に当てはまる数値として、適切なものはどれか。
　建築基準法関係法令によれば、最下階の居室の床が木造である場合における床の高さは、原則として、直下の地面からその床の上面まで(　　)cm以上とすることとされている。
　イ　30
　ロ　35
　ハ　40
　ニ　45

21　床下の換気に関する記述として、適切でないものはどれか。
　イ　湿気がこもりがちな、床下のコーナー部付近に換気孔を設けると効果的である。
　ロ　床下が常に乾燥するように、換気孔はできるだけ低い位置に設ける。
　ハ　外周部の換気孔から雨水が流入しないように、換気孔の下端にこう配をつける。
　ニ　間仕切壁の下部が布基礎の場合は、通風・点検のための換気孔を設ける。

［B群（多肢択一法）］

22　第一種換気の組合せとして、適切なものはどれか。
　イ　機械給気、機械排気
　ロ　機械給気、自然排気
　ハ　自然給気、機械排気
　ニ　自然給気、自然排気

23　畳が入る床の間はどれか。
　イ　板床
　ロ　本床
　ハ　琵琶床
　ニ　壁床

24　床の間に使用されない棚はどれか。
　イ　違い棚
　ロ　ひばり棚
　ハ　袋棚
　ニ　つり棚

25　畳製作作業中の包丁類の置き場所に関する記述として、適切なものはどれか。
　イ　畳台の上前の足の内側に置く。
　ロ　作業している定位置の後ろの床の上に置く。
　ハ　作業している製作中の畳の上に置く。
　ニ　畳台の下前の手先に置く。